

令和6年4月1日

令和6年度 福岡市立福翔高等学校経営方針

校長 藤 菊英

志を持ち、自らの目標を達成しようと努力する生徒と、意欲的・建設的に学校運営に参画する教職員の協働により、「熱・意気・力」の校訓を具現化した持続可能な学校をつくる。

そのために、すべての教職員が元気で生徒が安心して学べ、成長できる学習環境づくりと学力向上による進路実現をめざし、生徒に誇りと自信を持たせる教育活動を実践する。

また、市民からの期待と信頼をさらに高めるために、福翔改革を推進し、本校の新たな歴史を切り開く学校づくりを進める。

【 めざす学校像 】

「熱・意気・力」の校訓を具現化する「文武両道」を体現する生徒が数多く活躍する学校

【 めざす生徒像 】

「文武両道」をめざし、学習活動や部活動などの様々な体験活動を通して、予測困難な未来社会に対応できる能力を身に付けた生徒

※「文武両道」とは

「文武両道」とは、一人一人の人間が「文」にも「武」にも長けていることであり、「文」とは教科などの勉強のこと、「武」とはスポーツをはじめとする為すこと（経験を伴った学び）であり、運動部も文化部も生徒会も係・ボランティア活動もすべて「武」と考えています。したがって、「文武」とは、学ぶことすべてということです。

【 めざす職員室像 】

ポジティブで、同僚的な職員室（チーム福翔）

「スピード」「参加」「意欲」「コミュニケーション」「改善志向」「効率」

【 教育目標 】

- (1) 自己理解を深め、進路目標を設定し、個性の伸長と目標実現に向けて積極的に活動する人間を育成する。
- (2) 自ら考える力と豊かな心を持ち、他と協調して課題解決に取り組み生活を改善しようとする人間を育成する。
- (3) 急激な社会の変化に柔軟に対応でき、生涯学習を通して自己教育力を高めながら社会に貢献しようとする人間を育成する。

【 教育方針 】

- (1) 学力と体力の修練に努め、その充実・向上を図る。
- (2) 礼節をわきまえさせ、基本的な生活習慣を身につけさせる。
- (3) 責任感と協調性をもち、勤労を尊ぶ精神を養わせる。
- (4) 個性を生かして創造性を発揮させ、適性と能力に応じた進路指導の推進を図る。
- (5) 自主的・自発的な精神で生活を営む態度を養うよう努めさせる。
- (6) 人としての生き方・在り方を追究させることを通して、人権尊重の意識を高め、差別をなくす力を育てる。
- (7) コミュニケーション能力を高め、多種多様な情報を適切に収集・処理・発信できる能力を育てる。

【 令和 6 年度の重点目標 】

合い言葉 ： 「人間力を鍛える」

「熱・意気・力」の校訓のもと、「自他を大切に」「気づきを大切に」「わくわく感を大切に」しながら人間力を磨き、進路実現を目指す。

(1) 組織的な学校運営と危機管理の徹底

「すべては生徒のために」を常に意識し、主任主事を中心に教職員のもっている力を結集して、各部・各教科等が連携し、組織的に生徒の指導や校務運営にあたり、日常的に危機意識をもち、起こりうることを想定しながら教育活動を行う。

(2) 福翔改革サードステージ第 2 章の推進と学校改革委員会の活性化

キーワード「総合学科」「伝統×時代」「授業改善×アントレプレナーシップ教育」のもと、昨年度決定事項を着実に実行するとともに、前例にこだわらない新たな視点と自由な発想で、学校行事や入試などを含めた学校課題を解決し、改革を推し進める。

(3) アントレプレナーシップ教育の推進

「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間（デザイン思考）」及び「ジュニア・アチーブメント・プログラム（ジョブシャドウ・SCP・ミース）」等、全教職員で組織的に取り組んできた福翔キャリア教育に加え、様々な経験・体験を提供することで新たな学びを与え、福翔アントレプレナーシップ教育を確立させる。

また、社会のDX化にも柔軟に対応できるようなデジタル人材を育てていく。

(4) 希望進路の実現と年内入試への取組の充実

総合学科の強みを活かしながら、個々の進路に応じた学力の定着を図る。そのためには、指導と評価の一体化を図り、より良い観点別評価の在り方について、模索する。

また、年内入試を挑戦のための入試と捉え、安易な受験とならないよう指導するとともに、必要な環境を整えていく。その方策として、年内入試で活用できる資格取得、小論文、口頭試問などの対策についてブラッシュアップしていく。

(5) 部活動の活性化

部活動は本校にとって、重要な位置づけであり、文武両道、生徒募集、人間力を磨く観点からも部活動の活性化を推進する。

(6) 生徒指導・生徒理解の深化

規範意識を醸成するとともに、心を育てる教育の充実を図る。高校生としての人権感覚を磨き、自己肯定感を高めるため、学級や部活動などにおける集団作りを意識することで、より良い人間関係が作れる土壌を整える。

(7) 働き方改革への取組継続

ワークライフバランスの確立や生徒と向き合う時間の確保を目指し、業務改善を引き続き模索する。職員がお互いに協力し、助け合いながら持続可能な校務運営を目指し、風通しがよく活力のある職場風土を醸成する。